

自治体の課題、現状

本市においては、52校の公立中学校があり、生徒数29,922人で749部活が活動している。推計では、今後数年間の生徒数は、ほぼ横ばいの傾向であり、少子化による部活動への影響は少ないと思われる。

しかし、生徒の部活動に対するニーズの二極化（楽しみたい派とうまくなりたい派）に加えて、教員の部活動業務に対する負担感が増していることから、本市の部活動運営には、生徒の声に寄り添った対応と教職員の働き方・仕事の進め方改革の推進の両立が求められている。これらの課題解決策の一つとして、地域等にいる外部人材を活用しながら運動活動の環境を整備し、将来的な地域移行につなげていく必要がある。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	52校	全生徒数	29,922人 (R6.5.1時点)
域内の部活動数	749部 (R6.5.1時点)	実施した地域クラブ数	20クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	17人
主な運営団体	株式会社アーシャルデザイン/株式会社サクシード		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、卓球、剣道ほか計20部活		
平均的な活動回数	約3回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	川崎市立中学校4校

地域移行関連の取組、成果

- ・休日の部活動について、民間事業者が運営主体として連携し指導者を派遣するなど、専門的な指導の充実と生徒の技術力の向上及び教員の負担軽減に向けた実践研究を行った。また、取組を通じて生徒、保護者、教員へアンケートを行い、検証を行った。
- ・生徒や保護者からは「レベルの高い指導が受けられる」「今後も外部指導員の活用を希望する」など、指導者の指導が好意的に受け取られ、休日の部活動に外部指導者が加わることで、顧問が交代で休みを取りやすくなった。また、外部指導者のみの部活動指導を複数回実施し、教員のワークライフバランスの取組に寄与した。

運営体制図

